



あかるく元気な子 だれにも親切な子 しっかり考える子 ことばを大切にする子

『だれにも親切な子』に込めた意味…



○最近、テレビでこんな詩をよく耳にします。

『セトモノとセトモノと
ぶつかりっこするとすぐこわれちゃう
どっちかやわらかければだいじょうぶ
やわらかいところをもちましよう
そういうわたしはいつもセトモノ』



この詩を書いたのは、相田みつをさん。道徳の時間等で活用している『心のノート』（高学年）にも掲載されています。その『心のノート』のページをめくっていると、ふと、こんな言葉が目にとまりました。

『困っている人を見ると、心配になる。
なんとかしたくなる。自然と心が動き出す。
そう、それが「思いやり」の入り口。
だれにでもある心のあたたかさ。
「どうすれば、あの人のためになるのかな」と考えてみる。
それが、あなたの思いやり。
あなたらしさがあふれた思いやりの心をはぐくもう。』



阿太小児童一人一人にも、そんなやわらかい心・あたたかい心を育てていきたいなと思います。

○いじめは、絶対にしない・させない・許さない！

全国学力・学習状況調査児童質問紙の、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、本校6年生児童全員が、「そう思う」と答えています。これは大変素晴らしいことです。6年生が、これまでの小学校生活で培ってきた人権意識・人権感覚の一つの結晶と言えるでしょう。

ある人が言いました。「それは、悪ふざけやただの遊びではない。自分がされたら嫌なことをするのは、相手を下に見ているからや。それが差別や！ 相手の心から血が流れているのを感じる心を、君たちはもて！」

いじめは、人を差別する心から生まれます。いじめ＝差別。だから人として絶対にしてはいけないことなのです。「いじめは、絶対にしない・させない・許さない」6年生の思いを、阿太小学校全員の思いとして共有し、誰に対しても親切に接し、誰もがさわやかな気持ちで毎日過ごせる学校を築いていきましょう。

○「イライラ」の種があふれ、ちょっとしたことで許せないと思ってしまう現在の世の中。でも、ちょっとした心もちかたで相手の気持ちを考えた言葉がけや行動ができるようになるのですね。

